

# ピックアップ

pick up

同センターは、千葉。現状、食品や雑貨4件、5台で合計20件00件の処理が可能と

県船橋市と東京都江東などをメインに扱っているが「基本的に、

区の2カ所に設けているが「基本的に、

た既存の物流センター（受けられる荷物の）

を統合して移転開設し、件数、物、形などに制

限はなく、あらゆる多様なサイズの段ボールを正確に自動で高速

床面積は約2万1300平方メートル、旧2拠点の合計よりも大きな規模となっている。

そして、最大の特徴として、1時間当たりで見ると、人の手では100個が限界だったが、

より大幅にスピードアップしているのが各種の自動設備によるDX

化だ。ピックアップロボットではラピュタAMRを5台導入している。

さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

うことで、箱内に入らないメーカーも増え

た。さらに、自動封函機素材による緩衝材を使

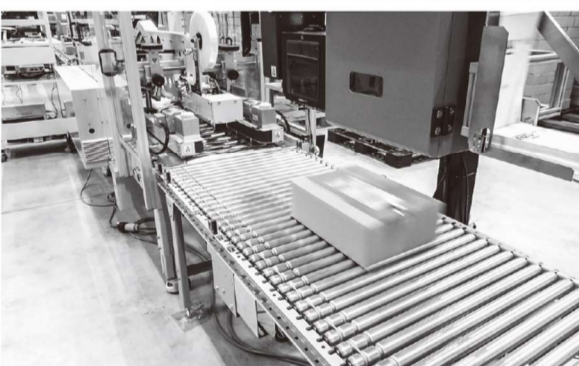
昨年8月に開業した「新習志野DC」



自動ピックアップロボットを導入



1時間で最大700件の処理が可能で自動封函機



厚生の一環として、広々としたカフェテリアスペースを設けたほか、玄関に緑化を取り入れるなど、スタッフが働きやすくなるよう職場環境を整備。

「若い力が発揮できるようなセンター

## 千葉県にDX型物流拠点 流通加工作業など自動化進む

千葉県にDX型物流拠点を開設し、流通加工作業など自動化を進める。同センターには福利

厚生の一環として、広々としたカフェテリアスペースを設けたほか、玄関に緑化を取り入れるなど、スタッフが働きやすくなるよう職場環境を整備。